



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	2013年度学会巡検報告 石神井川を歩く (学会記事) (fulltext)
Author(s)	松田,英克
Citation	学芸地理(70): 61-62
Issue Date	2015-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/139092
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

2013年度 学会巡検報告

石神井川を歩く

実施日：2013年12月15日（日）

案内者：石川温之（学部53期 院40期）

コース：王子駅一音無親水公園一独立行政法人酒類総合研究所一旧古川庭園一六義園

2013年度の学会巡検は、2013年12月15日（日）、王子駅に集合し「石神井川を歩く」をテーマに行われた。各巡検ポイントにおいて石川温之氏に説明を行っていただいた。

はじめに王子駅の南西方向にある音無親水公園へ向かった。音無親水公園は隅田川に流れる石神井川の旧流路に整備された公園であり、日本の都市公園100選に選ばれている。石神井川は洪水被害を防止するために、1950年代から始まった改修工事により隧道へと流れる都市河川となった。公園は旧流路の地形をそのまま利用した細長い窪地と河岸の散策路などから構成されている。窪地は川の跡という様子で、数メートルの溪谷に挟まれ、その中が親水施設として整備されている。現地では、隧道上部より河川が隧道内へ流れていく様子を確認することができた。

続いて、独立行政法人酒類総合研究所を訪れた。築後100年以上を経過した赤煉瓦造りの重厚な建物である。この建物は、砲の製造工場として作成された。この地にこの様な建物が作られたのは、石神井川の水力を利用した工場として建造された。その後、この研究所は、明治37年5月9日に古くから伝来の技術のみに頼っていた当時の酒造方法を改良発展させるため、酒類の醸造技術を科学的に研究する国立研究機関として大蔵省に設置され、東京都北区滝野川に誕生した。研究所の研究成果やお酒につ

いての技術的な情報等を解説した広報誌「エヌリブ」を年間2回発行しており、創刊号から23号まで酵母、麹菌、原料、醸造法、清酒の研究、お酒の安全性とおいしさなどを特集している。内部見学等も行っているようだが、本巡検では外観のみを見学した。

続いて、旧古川庭園を目指した。途中、歩道橋から飛鳥山を眺めた。飛鳥山公園は徳川吉宗が享保の改革の一環として整備を行った公園であり、標高20m程の小高い丘である。さらに、見学者の関心から西ヶ原一里塚を訪れた。この一里塚は日本橋から数えると日光御成道の2番目の一里塚にあたる。碑は車道の中央部に設置されていたため確認することはできなかったが、江戸時代の歴史を感じさせる地点であった。旧古川庭園は武蔵野台地の斜面と低地という地



写真1 旧古河庭園内の高低差

(筆者撮影)

形を活かし、北側の小高い丘には洋館を建て、斜面には洋風庭園、そして低地には日本庭園を配したのが特徴である。この庭園はもと明治の元勳・陸奥宗光の別邸であったが、次男が古河財閥の養子になった折、古河家の所有となった。庭園内は、前述した地形的特徴のため高低差が激しく、見学の際には苦勞するが、その場所その場所で異なる庭園の側面をみることができた。

最後の見学地となった六義園では、巡検参加者全員での記念撮影の後、自由見学となった。六義園は造園当時から小石川後樂園とともに江戸の二大庭園に数えられていた。元禄8年(1695年)、五代将軍である徳川綱吉より下屋

敷として与えられた駒込に、柳沢吉保が設計し、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、7年をかけて「回遊式築山泉水庭園」を造り上げた。各々公園内の散策を楽しんだ。

本巡検は、王子駅から六義園まで途中、様々な自然的、人文的事象に焦点をあてながら行われた。案内者である石川氏は、自らが説明するだけでなく参加者からも意見を聞きながら参加者が巡検に参加できるように配慮していた。そのため足だけでなく頭も疲れる巡検となったが、非常に勉強になった。僣越ながら、この場を借りて、今回の巡検を企画された石川氏に感謝の意を表したい。

(院 47 期 松田 英克)



写真2 巡検参加者集合写真

(筆者撮影)